

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数が前年を上回り、安定して推移している。また、外国人観光客による売上が2けたの増加となったほか、地元客も2か月連続で前年を上回った。客単価もアップしており、購買意欲の向上が感じられる。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・1月に引き続き、外国人観光客の好調な入込やさっぽろ雪まつり、冬季アジア大会などのイベントが寄与し、来客数の増加が続いている。買上率や客単価も上昇傾向にあり、相乗効果が生じている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・競合店との価格差が影響する酒は依然として悪いが、生鮮品は青果の単価上昇もあり、ほぼ前年並みの売上で推移している。一方、たばこの販売量は5%程度の減少が続いている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・先物オーダースーツなどが前年比120%で推移している。問い合わせも増えてきており、来月以降のオーダーの予約も入ってきている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・競合他社も含めて新型車効果が徐々に売上に反映されてきている。若干ではあるが消費者マインドも上向きになってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道の場合、納車が春先の3～4月になる、この時期から売れ始める傾向があり、今年も景気は上向きになってきている。ただ、4月からの税制変更を前にしての駆け込み需要による分も若干ある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・当地区の販売量が前年比120%で推移していることから、市場全体の景気は上向き傾向にある。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・冬季アジア大会の効果により、宿泊料及び飲食収入が押し上げられる結果となった。また、エスコート型旅行による国内客も堅調であった。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・今年は流水の接岸状況などが10数年ぶりに大変良好な状況となっており、天候も比較的安定していることから、当地への観光需要が好調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・店頭への来客数、販売量共に回復傾向にあり、前年の台風被害以降、継続していた消費低迷期を脱し、元の状態に戻りつつある。ただ、必ずしも景気が良くなっているというわけではない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・先行3か月の旅行相談件数が増えてきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・さっぽろ雪まつりや冬季アジア大会などの大きなイベントがあったことで、外国人観光客の利用が増えており、売上も上々であった。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスの個人契約の解約が想定よりも少なく、道内法人の大口契約も目標以上となっている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月と比べて、2月は技術売上及び関連商品の売上が好調である。例年の2月の雰囲気とは異質に感じられるくらい客の動きが活性化している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応が前月と変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・当市3大まつりの1つである冬のイベントが初旬に開催され、商店街に来街する客が増したが、イベントが終了し、中旬になると人通りが途絶えた。また、下旬には冬季アジア大会が行われたが、当市を訪れる観光客などは少なく、選手とみられる外国人をわずかに見掛けた程度であった。月全体としては中旬以降の出控えなどにより、来街者の増加には至らなかった。
	商店街（代表者）	単価の動き	・旧正月期間は航空機やホテルの利用が好調だったが、外国人観光客が立ち寄る店舗の売上は前年から大幅に減少した。旅行形態の変化がいわれているが、それだけでは説明できないほどの落ち込みであり、今後に向けての対応策も必要になってきている。	
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・2月はさっぽろ雪まつりと当市の冬のイベントが重なったこともあり、売上は前年比で104%、前々年比で99.5%となった。ただし、売上の60%以上を外国人観光客が占めているなど、日本人観光客が増えないため、当市全体の景気はあまり良くなっていない。	
	百貨店（担当者）	販売量の動き	・売上に変化がみられない。	

百貨店（営業販促担当）	来客数の動き	・総体の来客数が伸びてこない。イベントや催事など、瞬間的な集客はあるが、日々ならずと減少傾向が続いている。特にアパレルフロアでは減少傾向が続く中、春物の定価品が出始めた月後半の来客数が大きく減少した。
スーパー（店長）	販売量の動き	・社会行事や生活歳時などの関連商材では客単価が上昇するなど、良い傾向もみられつつあるが、客1人当たりの買上点数は前年割れの状態が続いている。
スーパー（企画担当）	お客様の様子	・前年の台風被害で土が流出した畑の客土工事でダンプが行き交っている。このような状況をみても、当地での消費に勢いが出てくることなど想像もできない。
スーパー（役員）	販売量の動き	・ここ数か月、生鮮食品、特に水産関連商材の相場高が続いている。食料品全般で単価が上昇していることから、客の買上点数が減少しつつある。ただ、売上はどうか前年を維持できている。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・一部の店舗では売上の回復がみられるが、競合店の閉鎖によるものであり、全体としては悪い状況が続いている。特に沿岸部ではいまだ回復がみられない。定期的に水産業従事者などの支払が厳しくなっていることも影響している。
コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・2月の売上は前年比97%であった。2月上旬から2週間、競合コンビニ店が改装のため休業していたことで売上が5%アップしたが、競合店がチェーン変更してリニューアルオープンした後は、売上が2%ダウンした。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・1人立ちセットの予約件数が前年よりも少ない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出た割に販売量の伸びがさほど大きくない。
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・車の販売量は前年並みだが、車整備やメンテナンスの売上が前年を若干下回っている。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・2月の自動車用燃料の販売量が前年比で大幅に低下している。一方、灯油の販売量はほぼ前年並みである。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・米国の新大統領就任による影響で株価が上がり、円安傾向にあるため、物価が上がるのが懸念される。また、米国の新大統領の政権運営が不安定なため、これからどういう影響が出てくるのかわからない。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年よりも客単価が下がっているものの、来客数は増えている。昨春からの告知がうまくいっていること、温暖な日が多かったことが要因であり、売上は前年をやや上回った。
観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・国内客が増加しているものの、外国人観光客の減少により相殺されており、大きな変化はみられない。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・2017年の新プランが発売されたこともあり、店頭への来客数、取扱量が増加している。
タクシー運転手	来客数の動き	・2月はさっぽろ雪まつり、冬季アジア大会などが開催されたことで多くの観光客が北海道を訪れたが、タクシーの利用はあまり増えていない。1台当たりの売上は前年比プラスだが、乗務員不足でタクシーの稼働が悪く、会社としての売上はマイナスであった。
タクシー運転手	単価の動き	・業界全体の推移をみても下降傾向にあり、あまり景気の良さを実感できない。何より労働者不足が顕著であり、何らかの対策を講じる必要性を強く感じている。
タクシー運転手	販売量の動き	・前年末から人材確保が順調に進んでいるが、その結果がまだ表れていないため、景気は変わらない。
観光名所（従業員）	来客数の動き	・2月26日現在の乗降客数は前年比92.4%となり、前年を下回ったが、悪天候による営業休止が今年は6日もあり、前年の1日から大きく増加したことが要因であり、景気は変わらない。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して天候状態が良く、欠航回数が少ないため、輸送量が例年ほど減少していない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不良や駅前百貨店の撤退によって中心部の商店街への来街者が減っていることが多少影響している。

	商店街（代表者）	販売量の動き	・クリスマス、年末シーズンと比べると、2月は厳冬期ということもあり、客足も客単価も落ち込んでいる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量は前月よりも増えているものの、3か月前と比べると7%弱ダウンしている。来客数、売上は現状、前年比91%台で推移している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・衣料品や家電、暮らしの品などの買回り品の動向が良くない。
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・節分、バレンタイン商戦などの催事販売の売上は前年を上回っているものの、それ以外の一般販売の売上は年明けから急速に伸び悩んでいる。特に1人当たりの買上点数に減少傾向がみられることが気掛かりである。
	スーパー（役員）	それ以外	・外国人観光客の入込は好調だが、恩恵は一部の業種にとどまっており、全体的な景気を底上げするほどの効果がみられない。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・単価の高い商材の動きが鈍くなっている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。
	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・記録的な大雪、寒波がみられたため、壮年期の老人を主要客層とする商売にはこたえる。また、健康産業の拡大がいわれているが、小規模店にとっては厳しい面がある。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年の北海道新幹線開業前のような忙しさはみられない。連日あまり混雑することもなく、静かな営業日が続いている。少人数の外国人観光客による利用は多いが、団体客は少なく、前月に続き来客数は前年を20%下回った。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今まで好調であった中国経済に陰りがみえ始めたこともあり、中華圏からの外国人観光客が減少傾向にある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー業界において地方は依然と厳しい状況にあり、疲弊している。冬期間は観光客が半減することになり、地元の景気も良くなる兆しがみえない。3か月前との比較では、金額にして約500～600万円の落ち込みであり、4月ごろまでは厳しい状況が続く。
	通信会社（社員）	単価の動き	・販売量は前年並みを維持しているが、客単価が下がっているため、収益面では前年からやや落ちている。業界的には格安メーカーの参入による影響もみられ始めている。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数の減少や客単価の低下がみられる。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・年末に比べると株式市況も盛り上がり欠けているため、消費、住宅投資も含めて、客のムードが盛り上がりがない状況にある。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションの商談に要する時間が長くなってきている。
	× 一般小売店 〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・年が明けてから、特に夜間の人出が悪く、得意先からは厳しいという声が多く上がっている。
企業 動向 関連	-	-	-
(北海道)	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の11月は販売量が前年比プラス6%であったが、2月はプラス20%になったことから、景気はやや良くなっている。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度内竣工の建築工事の現場が多く、プレミアムフライデーとはおよそ程遠い状況の中、深夜まで作業を続けている。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・実績値が計画値よりも上ぶれしており、想定よりもしっかりとした景況にある。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年比で15%程度アップして推移している。例年より暖かくなるのが早そうなこともプラスである。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・家具の個人需要は伸び悩んでいるが、首都圏のマンション投資に伴う需要が底堅く、全体としては大きな変化がないまま推移している。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・北海道では冬場特有の動きとして輸送量の減少があり、今年も国内貨物が減っているものの、春商戦に合わせて輸入貨物が到着し始めていることで数字を維持できている。

	金融業（従業員）	取引先の様子	・さっぽろ雪まつりや冬季アジア大会などのイベントが目白押しだったため、観光関連産業は好調を継続している。建設関連も改善している。一方、個人消費は衣料品の動きがさえず、生鮮食品や灯油、ガソリンの値上がりもかせとなり、力強さに欠けている。総じてみれば道内景気は3か月前と変わらない水準にある。
	司法書士	取引先の様子	・季節的な影響もあり、不動産取引や建物の建築などの動きがほかの時期と比べて停滞している。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・国内中心の事業を行っている客先については順調であるが、海外にも拠点を持っているような客先は横ばいである。全体的には3か月前と景気は変わらない。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して売上が減少している。年明けから荷動きが悪くなってきており、前年と比較しても売上が減少している。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年の不作の影響で、年明け以降、農産品の倉庫在庫量が例年よりも少なくなっている。輸送量も1割程度減少している。
	司法書士	取引先の様子	・北海道は雪国のため、冬期間の土地取引が極端に減少するが、今年は2月の終わりを迎えても不動産取引に動きがみられ始めない。建築資材の高止まりにより建築費用が高騰している状況下においては、収入の底上げがなければ不動産を購入することも少なく、全体的に景気が停滞している。
	その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	受注量や販売量の動き	・一般消耗資材は持ち直したものの、大型設備案件が少ないため、売上は前年及び3か月前と比べて約10%ダウンしている。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・自動車関連や住宅関連など、大型消費財の動きが徐々に活発になってきているという話を最近よく聞く。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・台風の影響により前年9月から求人広告依頼件数が低迷していたが、2月に入り緩やかではあるが、回復基調となっている。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	雇用形態の様子	・求人広告件数が減少している。求人広告を出しても中々人が集まらないことが大きな原因とみられる。企業の求人意欲は高いが、正社員から非正規へと向かう流れもみられる。
	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・減少傾向にあった新規求職者数が1年10か月ぶりに前年を上回ったが、月間有効求職者数は5年3か月連続で減少している。一方、求人倍率は6年11か月連続で前年を上回ったが、6か月ぶりに1倍を下回ったことから、今後の動向が懸念される。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・月間有効求人数は前年比マイナス12.9%と6か月連続で前年を下回った。一方、有効求人倍率は5か月連続で前年を下回ったものの、引き続き1倍を超えており、雇用情勢は改善している。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数を業種別にみると、医療福祉のほか、サービス業の業種で前年を下回ったものの、製造業や卸小売業、運輸業で前年を上回っていることから、業種ごとのばらつきはあるものの、全体的には高い水準を維持している。
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・小売業が依然として不振である。零細企業の倒産が目につくなど、活気が感じられない。
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・企業の採用状況を見ると、多くの企業で採用予定人数を確保できていないため、良い学生がいれば、2~3月でも紹介してほしいという企業のスタンスは変わっていない。ただ、2018年卒業予定者の採用活動がそろそろ始まってくるため、企業側の動きもシフトしつつある。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・1月に引き続き募集件数が減少気味である。業種別にみても満遍なく減っている。3~4月の人の移動が活発になる時期まで様子見しようというムードが漂っている。
	x	-	-